

Collaborative Design Workshop: New Ways of Learning Through STEM/STEAM Approach

池上穂風

研修先：國立臺灣師範大學

研修期間：2024年3月5日～8日

滞在期間：2024年3月4日～12日

この研修は國立臺灣師範大學（NTNU）の学生とワークショップを行うものでした。これは私にとって非常に有意義なものだったと感じます。英語でコミュニケーションを取ることはもちろん、台湾の教育や街の様子を肌で感じることができました。

私はこの研修まで日本を出たことがなく、パスポートを取るのも初めての経験でした。英語にも自信がなく、研修中ディスカッションが必要な分、ただの観光旅行では感じないであろう、不安もありました。しかし、言語の心配がいりませんでした。基本は英語を使いますが、台湾の学生の中には日本語を学習している人もおり、わからない単語を日本語で補ったり、それでも伝わらないときは翻訳アプリを使用したりしてやり過ごしていました。次第にアイスブレイクしていき、単語レベルでしか出なかった英語が、気づいた頃には文章として自分の意思を伝えられるようになっていました。低レベルかもしれませんが、英語に対して苦手意識のあった自分の中では一歩踏み出せたような気がします。

それと同時に台湾の教育のレベルの高さにも驚きました。まず研修に参加していたほとんどの台湾の学生が英語を自分のものとし、日本語をかなり学習している学生も少なくなかったことです。このことは自分の言語学習へのプレッシャーを少なくしたように感じました。また、学校の設備にも驚きました。この研修は教育に関わる内容であったため、台湾の小学校と高校に見学に行きました。どちらも学ぶための設備が充実しており、その内容も先進的なものであると感じました。さらにNTNUのラボや図書館もその広さや種類において、これらの教育を受けられることが羨ましいと感じるほどでした。日本と台湾の教育における重要視されている点の相違を感じることができたと思います。

街の様子も非常に興味深いことが多くありました。最も印象が強かったのはおいです。最終日まで慣れないにおいがありました。街並みは、見慣れない建物の中に慣れ親しんだコンビニなどのお店が多くあり、想定よりも安心感のある雰囲気でした。

研修自体は4日間でしたが、その前後も含めて9日滞在して観光を楽しむことができました。短い研修にも関わらず、飛行機やホテルを自分たちで予約することができたため、自分たちの都合の良い日程で調節することができました。九州大学のメンバーで観光することになって思っていたのですが、台湾の学生は皆親切で街の案内をしてくれました。夜中に山に登って夜景を見たり、ローカルなご飯屋さんに入ってみたり、自分たちだけではできないことまで連れて行ってもらえたため、非常に楽しい経験でした。SNSを交換して帰国後もチャットをするほど仲良くなれました。

これらの経験は私に新たな知見を広めてくれたと感じます。海外へのハードルを下げて留学することがより具体的なものになったように思います。



台湾のドリンクと象山からの夜景



NTNUの校舎